

群 教 セ	G11 - 03
	平 29.265 集
	学級活動

みんなで協力して、より良いクラスに していこうとする児童の育成

—低学年での話し合い活動における、
レーダー図とキラキラカードの活用を通して—

特別研修員 林 美穂

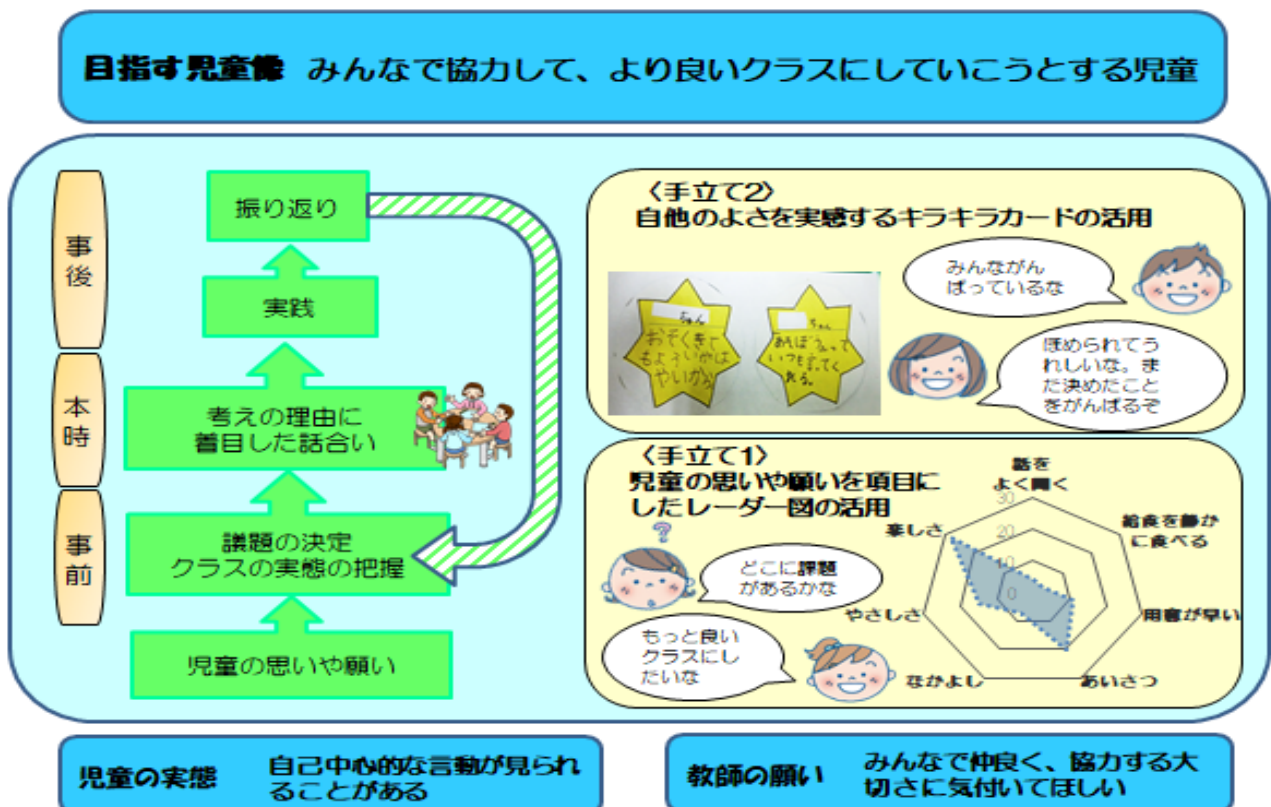
I 研究テーマ設定の理由

平成 29 年度の学校教育の指針（群馬県）では、特別活動の指導の重点として、「児童生徒が充実感や存在感を味わえるような自発的・自治的な活動を取り入れる」とある。また、はばたく群馬の指導プランには、「児童が自発的、自治的に自らの手で楽しく充実した学級や学校の生活をつくっていく学級会」が、「子どもの自主性や社会性を育む大切な活動である」と述べられている。

低学年の児童は、発達の段階からすると自己中心的な言動が見られるが、教師がリードしながら継続的に必要感のある話し合い活動の経験を積ませることで、クラスの課題について考え、みんなで協力してその課題を解決しながら、より良いクラスにしていこうとする態度を育むことが大切であると考え。そこで、どのようなクラスにしたいかというアンケートを取り、その結果を利用してクラスの課題を見付ける。そして、その課題について話し合い、みんなで決定したことをしっかり実践するという活動を繰り返す。このように、集団決定をし、それを実践していくことがクラスみんなの楽しさや喜びにつながるという経験を重ねることで、クラスのまとまりを育み、集団への所属意識を高めたい。また、他者から実践している姿を認めてもらえるという実感を得られることで、自信を持ち、次の取組への意欲が高まり、みんなで決めた目標に向かって一丸となって協力し、より良いクラスにしていこうとすることができると考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

みんなで協力してより良いクラスを目指し、必要感を持って話し合いを行うために、レーダー図とキラキラカードの活用という二つの手立てを設定した。

手立て1 児童の思いや願いを項目にしたレーダー図の活用

児童の思いや願いを基にしたレーダー図から、クラスの課題を考えたり、より良いクラスにしていこうとする意欲を高めたりする活動の設定

手立て2 自他のよさを実感するキラキラカードの活用

自他のよさを実感することのできるキラキラカードを活用した振り返りの場の設定

手立て1では、児童の「2年3組をこんなクラスにしたい」というそれぞれの思いや願い（7項目）を基にアンケートを実施し、レーダー図に表す。議題を考える場面でそのレーダー図を利用してどの部分に課題があるのかクラスで考える時間を設定する。また、みんなで決めたことを実践した後に、再度アンケートを実施し、前回のアンケート結果との違いをレーダー図を使って実感できるようにしていく。このようにゴールを可視化して、全ての項目がパーフェクトになるというキラキラゴールに近づくようにみんなで意欲的に話し合い、実践していけるようにする。

手立て2では、自他のよさを実感できる工夫として、議題に入る前に、前議題についての実践を振り返る場を設定する。みんなで決めたことを頑張っている友達の名前を書いた「キラキラカード」や、学級会ノートの振り返りを発表して、自他のよさを実感できるようにする。低学年において、自分で振り返るだけでなく他者から実践している姿を認めてもらえることで、自信を持ち、次の取組に対する意欲が高まり、みんなで決めた目標に向かって一丸となって協力し、普段からより良いクラスにしていこうとすることができるようになると考えた。

III 研究のまとめ

1 成果

- 児童の思いや願いを基に作成したアンケート結果をレーダー図にして提示したことは、目指すゴールとクラスの現状とのギャップが一目瞭然となり、課題意識を高めることができた。
- 話し合いで決定したことを実践し、レーダー図の広がりの変化を振り返ることで、「『あいさつ』がこんなに増えたよ」とみんなで頑張って取り組めたことを実感したり、逆にレーダー図の数値が下がった項目があると、がっかりして一人一人が頑張らないといけなと感じたりすることができた。このことは、みんなで協力する大切さに気づき、より良いクラスにしていこうとする意欲を高めるのに有効であった。
- 頑張っている友達の名前を書いたキラキラカードを紹介したことで、名前を呼ばれた児童は目を輝かせ嬉しそうにしている様子が見られた。また、友達の頑張りが知ることができ、みんなで頑張ったことを実感し、次の議題に対する意欲を持つことに繋がった。

2 課題

- 話し合いの中で意見を比べ合い、集団決定していく場面では、話し合いの拠り所としていくためのめあてを常に意識できるように、教師や議長がめあてを確認したり、めあてに沿って意見を聞いたりしていく必要がある。
- 話し合いで決まったことを実践していく中で意欲が継続していくようにするためには、教師からの取組に対する称賛や励まし、教師自身が児童のよさや頑張りを具体的にキラキラカードに書くなどしていくことが大切である。
- 中学年、高学年へとより充実した話し合いをしていくためには、学年全体、学校全体で話し合いの仕方のマニュアルの作成などを行い、系統的・継続的に取り組んでいくことが大切である。

実践例

1 議題名 「キラキラ集会をしよう」(第2学年・2学期)

2 本題材について

本学級の児童は、クラスの雰囲気や友達にも慣れ、一緒に遊ぶ友達ができたり、協力して当番活動をしたりしている。しかし、友達との関わりが増えていく分、日常の小さなトラブルも多くなっていく。そこで、今の自分たちのクラスに目を向け、そこから見えてきた課題について改善策を話し合い、みんなでもっと良いクラスにするために行動することができるようになってほしいと考える。本題材では、クラスの目指すゴールの一つである「なかよし」に視点を当て、「キラキラ集会をしよう」という議題について話し合いをする。そして、みんなで決めたレクリエーションを役割分担や準備、片付けを協力して行ったり、レクリエーションを楽しく行ったりすることで、仲良く協力することの大切さに気付くことを目指すものである。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	仲良く、みんなが楽しめる「キラキラ集会」について話し合い、行う遊びを集団決定する。	
評価 規 準	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	より良いクラスにしていきたいという意欲を持ち、話し合いに積極的に参加してみんな で決めたことに取り組もうとしている。
	集団の一員としての 思考・判断・実践	みんなが楽しく過ごせる学級にするために自分なりの考えをもって話し合い、決まっ たことを仲良く助け合って実践している。
	集団活動や生活につ いての知識・理解	みんなで決めたことを協力して実践することの大切さや、司会や書記の役割、基本的 な話し合いの進め方を理解している。
過程	時間	主な学習活動
事前 の 活 動	問題の発見	・クラス全体でアンケート結果のレーダー図を見て、どこを伸ばしたらもっと良いクラ スになるか考える。
	議題の選定 問題の意識化	・みんなで次の議題を決め、学級会ノートに自分の考えを記入する。 ・計画委員は学級会ノートに目を通しておき、どんな意見が出されているか学級会コー ナーに貼り出しておく。
本時 の 活 動	振り返りの共有 出し合う 比べ合う 決める	・前時の実践における自他の取組やレーダー図の変化について振り返る。 ・学級会ノートに書いた意見を出し合う。 ・それぞれの意見について賛成、反対とその理由を言う。 ・めあてにそって、集団決定する。
事後 の 活 動	実践	・集団決定した遊びに必要な役割を決め、それぞれが必要な準備をする。 ・みんなで決めたことを実践する。 ・仲良くするために、頑張って実践していた友達の名前をキラキラカードに記入してキ ラキラボックスに入れる。
	振り返り	・自分の実践を振り返り、学級会ノートに記入する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本題材では、話し合い活動を通して、みんなで協力して、より良いクラスにしていこうとする意欲を高めることを目指し、以下のような手立てを講じた。

手立て1

児童の思いや願いを項目にしたレーダー図から、クラスの課題を考えたり、より良いクラスにしていこうとする意欲を高めたりする活動の設定

- ・クラスの現状についてアンケートを実施し、その結果を表したレーダー図を見て、7つの項目のうちどの項目について話し合えば良いのかを考える。
- ・前回の議題「話を聞く時の約束を考えよう」を実践した後に行ったアンケートを基に作成したレーダー図の変化から実践を振り返る。

手立て2

考えの理由に着目した話し合いによって集団決定したことに対する実践を振り返り、自他のよさを実感することのできるキラキラカードの活用

- ・前回の議題である「話を聞く時の約束を考えよう」の各自の振り返りや気付いたことなどを前回の議長が発表する。
- ・前回の議題について振り返り、友達の頑張りを記入したキラキラカードを紹介する。
- ・学級会ノートに自分の意見とその理由を記入しておき、学級会で意見を発表するときには、意見とその理由を発表する。

4 授業の実際

(1) 議題の決定

アンケート結果をレーダー図に表し、それを利用して何について話し合うのか議題を考えたい (図1)。

「『楽しさ』が減ったよ」「『給食を静かに食べる』がやっぱり少ない」などレーダー図の値が落ちているところに目を向ける児童や、「『話をよく聞く』がゴールまで遠い」と前回の議題に目を向ける児童などが見られた。前回話し合って実践した「話を聞く時の約束を考えよう」が、まだゴールまで遠いので、もう一度みんなで約束を確認して継続していくこと、今回の議題はレーダー図の値はあまり低くないが、ほとんど1学期から変化がなく、ゴールできていないこと、転入生が来たことなどの理由で「なかよし」に視点を当てて、みんなが仲良くなる会「キラキラ集会をしよう」を議題として話し合うことになった。

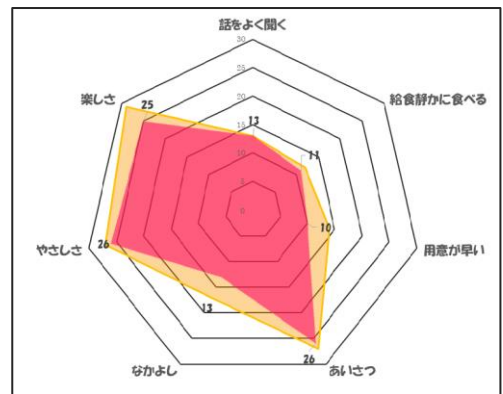


図1 アンケート結果

(2) 前議題における実践の振り返りの共有

話し合いの導入部分で、前議題の実践を振り返る活動を取り入れた。それぞれの学級会ノートに自己評価をする欄を設け、それを前回の議長がまとめて発表した (図2)。前議長の発表の中で、結果を受けて感じたことも発表し、議長として最後まで責任を持って取り組めるようにした。次に、実践後のアンケート結果を提示し、実践したことによってクラスがどのように変わったのかを振り返った (図3)。クラス全体の実践を振り返った後に、頑張っていた友達の名前を書いたキラキラカードを教師が読み上げた (図4)。前回の議題「話を聞く時の約束を考えよう」では、大勢の前での発言を苦手とする児童の頑張っている様子を称賛するカードが多く見られたので、名前を読み上げるととても嬉しそうな表情になった。

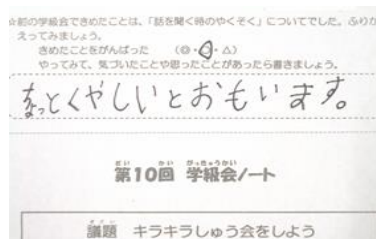


図2 学級会ノート

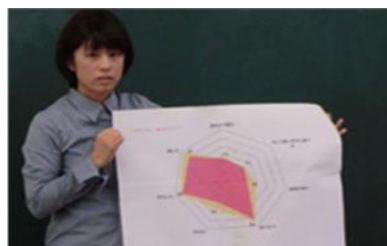


図3 アンケート結果の振り返り



図4 キラキラカード

(3) 考えの理由に着目した話し合い

事前に学級会ノートに自分の考えを記入させ、教師が一人一人の学級会ノートに目を通しておく。話し合いのめあてを「仲良く、みんなが楽しめる遊びを考えよう」として、めあてから明らかに外れているものはもう一度考えるよう助言しておいた。意見の比べ合いの場面では、担任が議長をして、出された意見やその理由についてどう思うかなど、意見を交流できるようにした。また、この時もめあてにある「仲良く」「みんなで楽しい」ということを意識させて発言を促すなどした。

教師：話し合いのめあてにある「仲良く」ということから考えて、賛成や反対を言ってください。
児童1：フルーツバスケットに賛成です。理由は、全員で遊べるからです。
児童2：フルーツバスケットに反対です。理由は、転んだりして危ないからです。
教師：けがをするかもしれないから、仲良くなれないってことかな。
児童3：フルーツバスケットに反対です。理由は、走ってぶつかるとけんかになっちゃうからです。
教師：フルーツバスケットについて反対が多いけど、こんな理由で仲良くなれるよという賛成の意見がある人はいませんか。
児童4：フルーツバスケットに賛成です。早歩きでやれば人ともぶつからないで、仲良くやれるからです。
教師：フルーツバスケットについては、賛成も反対もあります。賛成の人は、こうすればいいんじゃないかという考えも言ってくれたので、まだ残しておきましょう。

(4) 実践

話し合いで決まった「宝探し」「バナナ鬼」について、それぞれの係を決め、「楽しく、みんなが仲良くなれる」ルールを考えてキラキラ集会を行った。集会を始める前にも、改めてめあてを確認してから活動した。宝物を探すために友達と作戦を立てたり、普段遊ばない友達が鬼に捕まったときも助けてあげたりなど、協力して楽しむ様子が見られた(図5)。集会后に、仲良くなるために活躍していた子の名前や今まで話し合った議題について継続して頑張っている友達の名前をキラキラカードに書くなど、継続して実践している。



図5 キラキラ集会の様子

5 考察

議題を決定する場面では、レーダー図によりクラスの課題が明確になった。いくつかの数値の落ちている項目のうち何を議題にするか考えた時には、「給食の時、いつもうるさいからこれを議題にした方がよい」「転入生が来たから、『なかよし』が良いよ」など、クラスの現状を考えながら議題を考えることができた。前回の実践を振り返る場面でレーダー図を提示した時には、「色が減っちゃったよ」「『話をよく聞く』が一つだけ増えた」などの意見が出たが、全体として数値が下がった項目が多かったことで、児童ががっかりしたり、このままではいけないという声が聞こえたりした。レーダー図の色の変化を強調して強く意識させることで、話し合いと実践していくことの重要性を感じさせ、本時の話し合いがより深まったのではないかと感じた。また、キラキラカードを読み上げる時に、本議題のめあてである「なかよし」の部分で課題があると感じた子どもの名前を意図的に読み上げたことで、「すごい」「ぼくも、そう思った」など、その子どものよさに目を向ける発言を聞くことができた。クラス全体で話し合いのめあてにある「仲良く」「みんなで楽しい」を意識しながら必要感を持って話し合い、みんなでキラキラ集会を行うことで、クラスのまとまりが深まり、仲良く協力して生活していこうとする雰囲気が高まった。実践後のアンケートでは、議題を決めるときに当てた視点「なかよし」の項目に大きく広がりが見られた。アンケート結果を見た児童からは、「キラキラゴールに近付いてる」と嬉しそうな感想をたくさん聞くことができた(図6)。

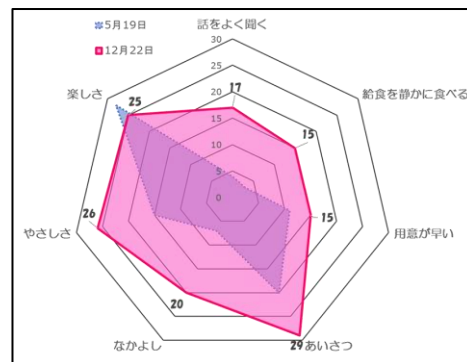


図6 実践後のアンケート結果